

社会福祉法人秋田県身体障害者福祉協会
 指定障害者支援施設秋田ワークセンター
 平成 27 年度 事業実績報告

総 括

自然災害による被害、利用者における大きなトラブルや事故、職員による事故・事件もなく、今年度の事業についてはおおむね計画のとおり実施することができた。

また、収支においても所期の収入及び支出となっており、総じて年間を通じて安定的な経営・運営ができた。なお、グループホームの設立に向け、建設用地を取得するとともに、建設資金となる積立金を積み立てたところである。

着実に進んでいる入所利用者の重度化・高齢化への対応は、電動ベッドやユニバーサル食器の導入などを行い計画的に取り組んでいる。併せて、生活介護事業における日中活動の充実にも努めているところである。

景気低迷による発注量の減少、低価格化が続いている就労支援事業では、官公需による受注も少しずつ増えており、今年度の売上目標を達成することができた。

しかしながら機械及び器具は確実に毎年消耗しており、作業効率の向上及び維持のためには、機器の整備、交換が必要不可欠なことであるため、今年度も機械の整備、補修など一部を除き計画的に行ったところである。

平成 27 年度の事業実績は次のとおりである。

1 定員及び現員の状況

施設入所支援事業	利用定員	54 名	／	現 員	52 名	(男性 40 名、女性 12 名)
生活介護支援事業	利用定員	48 名	／	現 員	49 名	(男性 36 名、女性 13 名)
就労移行事業	利用定員	6 名	／	現 員	0 名	
就労継続 A 型事業	利用定員	10 名	／	現 員	8 名	(男性 7 名、女性 1 名)
就労継続 B 型事業	利用定員	30 名	／	現 員	31 名	(男性 22 名、女性 9 名)

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

2 職員配置の状況

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

職 種	職員数		担 当 業 務
	27 年度末	26 年度末	
所 長	1	1	所内の総括、苦情解決責任者、会計責任者
サービス管理責任者	2	2	利用者の個別支援計画、アセスメント、利用計画原案、モニタリング等相談業務及び記録等の確認 (生活介護・施設入所支援事業 1 名、就労支援事業 1 名)
事 務 員 (支援員兼務)	5(2)	3	サービス区分の予算・決算の事務処理及び金銭の出納 利用者利用料の請求・精算業務等、職員の給与、福利厚生業務、利用者支援等
生活支援員	10(7)	10(7)	生活介護支援及び日常生活支援、相談業務
就労支援員	7(2)	8(3)	作業支援及び指導、製品管理、営業販売、相談業務
看 護 師	1	1	利用者及び職員の健康管理
栄 養 士	2(1)	2(1)	利用者の給食献立、利用者の栄養管理

調 理 員	4(4)	3(3)	給食業務
嘱 託 医	1(1)	1(1)	利用者の検診、医務相談
そ の 他	2(2)	3(3)	給食業務補助
合 計	35(19)	34(18)	

※職員数の（ ）の数は嘱託職員・非常勤職員及びパート職員の再掲)

3 事業の実施状況

(1) 施設入所支援事業

年毎に確実に入所利用者の重度化・高齢化が進み、それに対応できる事業所として、利用者が安全に、安心して暮らせるよう利用者へのアセスメントやモニタリングに十分時間をとり、利用者のニーズを達成するため関係者で話し合いを行い、個別支援の充実を図った。

また、利用者の身辺自立を妨げないよう考慮した、施設設備の改善を進めるとともに、切れ目のない支援が出来るよう、夜勤者及び日勤者が起床・就寝時、朝・夕の食事前後、土日・祭日及び緊急時における様々なニーズに対応するため、申送り等により情報共有化を図り、生活支援の充実に努めた。

更に、職員のチーム化や支援動作の検証を行い、マニュアル化し、支援の格差がなく、職員個々の無駄な動きや重複支援を省くなど、効果的な支援の実施やリクス軽減のための支援体制の整備を行い、利用者が日々、人と人とのふれあいを大切に思う心の助長や、健康管理、食事・排せつ支援及び日々の生活相談や情報提供での充足感を感じられるサービス提供に努めた。

(2) 生活介護支援事業

利用者のニーズに応える多様な創作活動やレクリエーションなど、日中活動プログラムの充実を図り、利用者が望む日々の生活の実現に努め、食事や入浴、排せつの介護、生活情報の提供など、日常生活における個人支援プログラムに沿ったサービス提供に努めた。

更に、身体の機能維持や健康の保持、増進のために理学療法士による機能訓練計画を立て、計画に沿った訓練をほぼ毎日実施するとともに、健康診断、通院・受診及び服薬支援のサービス提供を行った。

食生活の充実のため、配膳や下膳はもちろんのこと、配茶やスプーン、フォーク等についても個人に合った物を準備し支援の充実に努めた。

季節感を出すために毎月のように行事を開催し、併せて様々な方々との交流が出来るように夏祭りや日帰り旅行、地区運動会、小学校生徒とだまっこ交流会、中学校生徒と学習交流会、クリスマス会などを開催し、四季折々の行事を行うことに努めた。

(3) 就労支援事業

景気の低迷が続き、景気の先行きが見えない中厳しい状況が続いているが、売上目標 6,400 万円に対し、6,420 万円と今年度の目標を達成することができた。

利用者の工賃及び賃金の総支給額は 19,533 千円で、前年比の 106%、1,096 千円の増額となっている。

① 就労移行支援事業

4 月から事業再開となり、支援学校や、B 型事業所等から 15 名の利用があった。

② 就労継続 A 型事業

- ・ 印刷事業の受注先は一般企業からの発注が大半を占めている。平成 25 年 4 月より優先調達推進法が施行され、秋田市役所、労働局、日本政策金融公庫等からの官公需の随意契約による受注が若干ではあるが増えてきている。その反面、県からの受注は契約内容がマッチングしないため、ほとんど契約出来ない状況である。

また、年賀はがきの印刷に関しては、例年通り既存の顧客に対してダイレクトメールを送信し、受注の確保に努めてきたが、顧客の高齢化や若者の年賀状離れにより受注件数、受注枚数は年々減ってきている。営業面に於いても、当施設の福祉事業に理解のある企業関係、あるいは学校や保育所、地区社協へ会報作成等の情報収集と営業を行っているものの、まだまだ競争も厳しく売上の落ち込みが続いているところである。

- ・ 縫製作業は、他社よりも価格が低い事をアピールポイントとしてエプロンや小物類の継続的な受注に力を注ぎ営業を展開して来た。保育所や専門学校等からの継続した受注があるものの生徒数の減少により注文数が減ってきている。
- ・ リサイクル作業は、取引企業や福祉施設、古紙ステーションを利用しての地域住民等からの安定した回収作業ができるようになったが、全体としては回収量、買取価格も横ばいの状況である。

③ 就労継続B型事業

- ・ 軍手作業の受注数は前年並みでほぼ横ばい状態である。しかしながら原料費の値上げが続いていることに加え、軍手編み機の劣化に伴い修繕が必要な機械が多く、繁忙期の納期に遅延が生じている。
- ・ ウェス作業の受注件数はほぼ横ばいであるが、大口の注文もあり若干売り上げが伸びている。
- ・ 売店「ハートランド」は、主力商品の食品や飲み物類、切手の他に、季節的な商品として果物や麺類の販売、また、施設入所支援事業の利用者からの買い物注文等を行ったところ、集客効果があり昨年より売上の増に繋がっている。
- ・ 清掃作業は、施設内の清掃を受託し、現在7名が従事しており、安定した収入源となっている。また、入所利用者の快適な環境づくりにも大きく貢献している。

4 施設の整備状況

① 廊下エアコン追加工事

東棟・西棟に大型で冷風機能の高い空調機器2台を設置済みであるが、居室全体に冷風が行き渡り、日中や夜間の生活を更に快適にするため新たに2台追加した。

② 照明のLED化

施設内の蛍光灯を電気使用量の少ないLED照明に付替える工事を行った。

③ 就労移行支援事業支援室工事

平成27年4月より就労移行支援事業を再開したことに伴い、第2作業棟にパーテーションを設置し、支援室を整備した。

④ 居室改修工事

居室の壁紙の張り替えを行うとともに、物干し掛けの取付けを行った。

⑤ 供養塔解体撤去工事

開設当時よりある入口道路横（第2作業棟横）の供養塔を解体撤去した。

5 機器の購入及び設備の整備状況

(1) 生活介護支援事業

① 電動ベッドの入替え

利用者の安全を確保するため、介助バー等が付けられる電動介護ベッド4台を入替えした。

② 携帯型ナースコールの増設

利用者の高齢化、重度化に伴いきめ細やかな支援をするとともに、即時に対応できるようナースコールを増設した。

③ ユニバーサル食器の導入

重度障害者の食事をより自立したものにするため、ユニバーサルな食器を購入した。
また、利用者に見た目も豊かな食生活を楽しめるよう食器の入替えをした。

(2) 就労継続支援事業

① サーバーの交換

サーバーのリース期間が終了のため、交換を行った。

② 印刷両面機のローラー交換

印刷両面機のローラーが老朽化のため、交換を行った。

③ 事務用コピー機の入替

作業の効率化を図るため事務用コピー機（FAX兼用）の入れ替えを行った。

④ 軍手編み機の購入

軍手編み機の劣化に伴い、修理不能となり、繁忙期の受注量に対応出来ないため、中古の軍手編み機2台を購入し、作業能力の改善を図った。

⑤ 就労作業機器の購入

編集用パソコン2台の購入を計画したが、設置価格の折が付かなかったことや、売上額も伸びなかった等の理由により、導入を見送った。

6 給食提供の状況

(1) 行事食・選択食の実施

四季折々の日本の食文化や斬新なアイデアを盛り込んだメニューなど、満足感や幸福感など心理的な面も大切にしながら、楽しい豊かな食事を目指し、年7回の行事食と18回の選択食を実施した。

(2) 利用者の健康づくり

年4回の食事摂取調査、身体・健康状況に関するデータを支援員、看護師などの専門職と共有、連携し、個別の栄養ケアマネジメントの作成により、健康的な身体機能の維持、増進のために栄養と健康の管理に努めた。

2015年厚生労働省の食事摂取基準に基づき、生活習慣病の重篤化と合併症予防のため、栄養バランスと節塩を重視したメニュー提供と食事指導を実施した。

(3) 福祉弁当

下北手地区社会福祉協議会から委託を受けて、地域の独居老人に対して月1回(6月～9月の夏季間は中止)、年間78食の福祉弁当を提供した。

旬の食材を利用し、食べ易い、安全、安心の手作り弁当と、メニューや食材の効能情報は、好評であった。

7 健康管理の状況

(1) 定期健康診断、定期健診等

健康管理のために年2回の定期健康診断、月2回の嘱託医の診察、月1回の体重測定、週1～2回の血圧測定などの定期健診の充実を図り、疾病の早期発見・早期治療に努めた。

また、利用者の96%の人は何らかの疾病を抱え治療中であるため、定期通院、内服管理の徹底に努めた。

(2) インフルエンザ予防

インフルエンザ予防のために、予防接種料金を一部施設負担で希望者(利用者72名、職員

32名)に行った。罹患者はいなかった。

(3) ノロウイルス等感染症予防

所内での感染を防ぐために、普段の手洗い、うがいを励行し、朝の会やポスターの掲示等を通じて清潔感の助長に努めるとともに、所内研修において発生時の対応についての手順、注意事項を確認した。結果として罹患者は1名、集団感染はなかった。

(4) 機能訓練の実施

平日の月曜日から金曜日の、午後1時半から午後3時まで、理学療法士の作成した個別プログラムに添った機能訓練を実施し、身体機能の保持増進を図った。

8 衛生管理の状況

(1) 寝具類の交換及びシーツ交換

寝具類(枕・敷・掛布団・毛布等)の交換を年1回、シーツ・カバー類(シーツ、布団・毛布カバー)は毎週1回行い、寝具類の清潔に努めた。

(2) 居室、浴室及び便所等の清掃

利用者の居室清掃(荷物の整理整頓及び床や隅々の清掃、ワックスがけ)を年1回以上行いまた、共通部分である便所、浴室、脱衣室、廊下、多目的ホール等の清掃及びワックスがけを行い、衛生管理に努めた。

(3) 入浴

一般入浴を月・木曜日の午後1時から午後5時まで行い、7月～9月の期間は土・日もシャワー浴を行った。

介護及び支援入浴は火・金曜日に行い、女子は午前10時00分から午前11時40分まで、男子は午後1時15分から午後3時30分までとした。その他、入浴の無い日は清拭等も行いながら、身体の衛生保持に努めた。

9 災害事故防止等訓練の状況

(1) 重度障害者への防災上の配慮

- ① 同室者(2人部屋)への配慮として、できるだけ歩行の困難な人同士、聴覚障害者同士等の組み合わせにならないよう配慮し、やむを得ず同室にする場合は、緊急呼出ベルの設置や、隣室者からの協力や職員への通報を密にするなどの配慮をした。
- ② 障害の程度によって避難路の確保に努めた。また、歩行の困難な人、目の不自由な人等は避難口に近い居室にするなどに配慮をした。
- ③ ベッドで寝たままの状態での避難させることができるよう工夫をした。
- ④ 予備の車椅子を設置した。
- ⑤ 浴室・脱衣室から容易に避難できるよう介護用布担架を常備している。

(2) 事故や災害防止と安全のために

① 防災計画

きめ細やかな消防・防災計画の整備と万全な備えを行い、予防に重点を置いた取り組みを実施し、設備の点検・管理や整理・整頓を徹底した。

② 避難訓練

所轄の秋田市城東消防署の指導を得て、日中・夜間(想定)も含めた総合訓練(通報、初期消火、避難、オイルパン使用の消火器操作訓練等)や、地震想定での避難訓練を行うと共に、

災害を未然に予防する防火思想の普及・徹底を図った。

また、災害時や停電時における安全対策や機械器具、装置の操作手順の周知に努めた。

③ 交通安全教育講習

朝の打ち合わせ会や朝礼時に欠かさず交通安全教育を実施し、10月には利用者及び職員を対象に交通安全意識の高揚と事故防止のため、交通安全研修会を開催した。

また、利用者及び職員の車両通勤者を対象に秋田東地区安全運転管理者協会主催の「無事故・無違反100日運動」に5チーム25名が参加し、交通安全意識の啓発・事故防止に努めた。

10 就労支援事業の研修

事業名	研修日	研修場所	参加者数	備考
就労A・B型事業利用者・家族会合同研修	6月26日(金) ～27日(土)	「函館カールレイモン」視察 元町公園・函館山・金森倉庫見学	A型5名 B型14名 家族会1名	宿泊 湯の川温泉 「しおさい亭」

11 就労支援事業の推移

(1) 事業収入額の推移

(単位：円)

年度\事業	就労移行支援 (内部加工)	就労継続支援 A型(雇用型)	就労継続支援 B型(非雇用型)	年度総計
平成22年度	0	49,306,238	14,255,375	63,561,613
平成23年度	0	46,133,446	15,798,352	61,931,798
平成24年度	0	45,978,104	15,514,275	61,492,379
平成25年度	0	46,640,297	15,798,342	62,438,639
平成26年度	0	46,221,705	16,315,893	62,537,598
平成27年度	33,750	45,941,768	18,228,562	64,204,080

(2) 工賃支給実績額の推移

(単位：円)

年度\事業	就労移行	就労継続A型	就労継続B型	年度総計
平成22年度	0	12,959,005	4,233,400	17,192,405
平成23年度	0	12,492,202	5,080,580	17,572,782
平成24年度	0	14,436,864	4,857,130	19,293,994
平成25年度	0	12,545,794	5,603,060	18,148,854
平成26年度	0	12,155,507	6,302,618	18,458,125
平成27年度	33,750	14,525,502	4,994,510	19,553,762